東南アで建築基礎施工

タケウチ建設

秋にもミャンマーに拠点

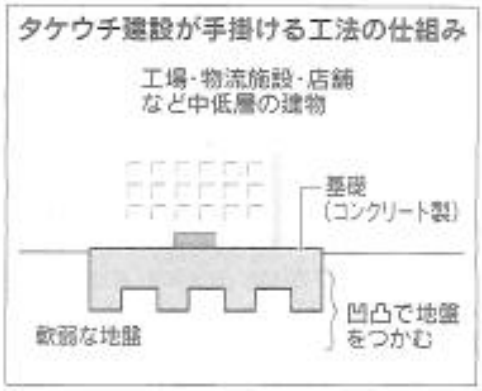
軟弱地盤向け工法 強み

建築基礎設計を手掛けるタケウチ建設（広島県三原市）は東南アジアへの進出を本格化する。今秋にもミャンマーに現地拠点を開いて社員を派遣するほか、2016年にはベトナム・ホーチミンにも現地駐在員を置く。現地に多い軟弱な地盤でも建物の損傷が発生しにくい独自の施工技術を訴え、日系企業の工場や物流施設、店舗などの建設需要を取り込む。

ミャンマーでは工業団地に進出した日系メーカーの工場建設の基礎工事を1件受注した。今秋の着工に合わせて現地法人を設立し、駐在員を1人派遣。さらに受注の取り込みを目指す。

ベトナムでは月内にもホーチミン工科大学と連携して現地の地質や地盤沈下の被害例などの調査を始める。約8カ月かけて現地の法令や基礎施工需要なども調べる。16年をめどに実証事業を実施した上で、現地駐在員を派遣する計画だ。

地盤改良の「TNF工法」は低コストが売り（施工例）



ホーチミン工科大との調査は、国際協力機構（JICA）の事業を受託する方式で、3000万円をかけ進める。

ベトナムへの本格進出に備え、既にベトナム人3人を採用した。現地で日本語の研修中といい、5月にも三原市の本社に入社する。16年にも2人が入社する予定だ。

タケウチ建設が主に手掛ける「TNF工法」は、軟弱な地盤に建物を建てる際の基礎工法。井桁状に凹凸を付けたコンクリート層を敷地にかぶせて基礎とし、その上に建物を建てる。凹凸が地盤全体をつかむことで、仮に地盤全体が沈み込んだとしても建物が傾きにくく、損傷が抑えられる。くいを打ち込んでその上に基礎を作る一般的な工法に比べて工期が短く、資材の使用量も少ない。「施工コストを10～20％減らすことができる」（竹内謹治社長）という。

解体費用も比較的安く、上場企業にとっては会計上の資産除去債務の抑制にもつながるメリットがある。

5階建て以下の中低層建築に向き、国内では約20年間で500件強の実績がある。物流施設や工場、ホームセンター建設などでの採用が目立つ。

タケウチ建設の15年6月期の売上高は前年度比1割増の25億円を見込む。国内の受注開拓とともに、海外に乗り出すことで成長持続を目指す。